

第2期国分寺市公民館運営審議会 平成29年第1回定例会要点記録

日 時 平成29年7月18日（火） 午後3時～5時

場 所 国分寺市立教育センター 教育資料室 （ひかりプラザ5階）

出席者

委員 佐藤（一）委員長・田中（英）副委員長・木下委員・佐藤（敏）委員・長谷部委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・佐藤（洋）委員・松井委員・大内委員・田中（雅）委員

教育委員会 古屋教育長・堀田教育部長・本橋総合教育担当課長

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・山口本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係

《委嘱状伝達式》

1 委嘱状伝達

教育長より委員へ委嘱状の伝達

2 教育長あいさつ

教育長：市民との協働ということがいわれているが、この審議会も第2期になる。

国分寺市といえば公民館といわれ、50年以上の歴史がある。その歴史や伝統を守りながら、今後の公民館のあり方をご検討いただければと思う。第1期では「地域づくりを目指した公民館のあり方」についての答申をいただいた。

6つの指標の提言をいただき、今後、この答申に基づいてこれからの公民館活動を進めていくことになると考えている。よろしくお願いいたします。

3 教育部長あいさつ

教育部長：昨今、市民との協働ということがいわれて久しい。その協働を実感できる場所が公民館活動だと感じている。委員の皆さんのお知恵を借りながら、我々もできる限りのサポートをし、今後さらに進めていただければと考えている。

総合教育担当課長：公民館については、様々な場面で事業を拝見させていただいている。この間、事業が拡大する一方、予算が削減し、様々な工夫する中で事業展開していただいていることに感謝申し上げる。

4 委員自己紹介

委員の自己紹介

5 正副委員長選出

委員長 佐藤（一）委員

副委員長 田中（英）委員

委員長：国分寺市にとってよそ者だからこそ見える面もあると思い、これまで関わらせてもらってきた。前期は、公民館が地域の中でどのような役割があるのかを、実践を掘り起こしながら審議し、委員自らが答申を書いてきた。答申はまとめたが、これから何をどのように進めるか、第2期で考えていかなければならないと思っている。

副委員長：第1期の答申を受けて、第2期では公民館が地域でどのように発展していくかを考えていきたい。それぞれの館にメスを入れながら、審議を進めていきたいと考えている。

《第1回定例会》

1 連絡事項

（1）職員紹介

山崎公民館課長兼本多公民館長以下自己紹介

（2）配布資料確認

資料1から資料9及びその他を確認

2 報告事項

（1）平成29年度公民館事業について

事務局：資料5に基づき、各公民館長から公民館事業体系10項目の分野の内容と平成29年度事業予定について説明。資料6に基づき、平成29年度公民館予算について説明。

委員：文京区では長い連続講座を取り止めたため、自主サークルができないという課題が出ている。小平市では10回の連続講座が受講者の負担になることもあり、短い単発の講座へと変わってきている。国分寺市はその中間といえるが、講座の回数と自主サークル化の関係についてはどのようになっているか。

事務局：平成23年度に事業費を大幅に削減したことで、連続講座の回数が減ってきている状況はある。その中で事業によっては連続講座と単発の講座を組み合わせている。

委員：講座の回数だけの問題ではない。その講座に集まったメンバーの中に、リーダー核の人がいると、自主グループ化が促進する可能性がある。

事務局：「幼い子のいる親のための教室」などは、同じようなメンバーが集まっていることで、互いに深く知り合い自主グループになっている。また光公民館では4回連続の父親を対象とした講座でも、グループ化が進んだ実績がある。

委員長：事業費の削減は他の地域でもあることで、それを踏まえて何ができるかをしっかり考えていく必要がある。

委員：光公民館での「レゴ」の事業はどのように進めているのか。

事務局：都立国分寺高校の生徒の協力を基に、参加する子どもたちの創造性に応じ

た取り組みを行っている。今後、作り上げた作品の発表も行っていく。「レゴ」が高価なため、参加者にまわるだけの量を集めることに苦勞している。

委員：異世代との交流という意味もあるので、今後の仕掛けに工夫をしていただきたい。「レゴ」を持っている家庭は多いので、広く市民に呼びかけてみてはどうだろう。

3 協議事項

(1) 今後の審議会について

事務局：第1期の答申を、公民館事業に具現化していくために、答申の内容についてさらに審議を深めていただければと考えている。社会教育法第32条に規定している「公民館評価」についても審議していただければと考えている。

委員長：まずは前期の答申をしっかりと読み込むことが大切。委員それぞれの思いを共有したい。皆さんからご意見を伺いたい。

委員：6つの柱になる指標から絞っていくのがよい。

委員：審議会の会議では、行政からの報告が多いが、公運審で話し合ったことが行政の結果として出せるような方向で進めていきたい。

委員：答申を新しい委員や運営サポート会議委員と共に学習していき、答申の具現化と発展を進めていきたい。また研修もしていきたい。

委員：公民館を一つのキー・ステーションとして、地域の人の絆や結びつきを深めることができればよい。中でも、障がいのある人たちが、公民館を通して共に学ぶことができるようになってほしいと考える。

委員：国分寺市の歴史を学ぶ講座をしてほしい。

委員：参加者の減少や高齢化、事業の継続性といった課題をこの審議会ですっかり検討していきたい。

委員：地域の学校と公民館とのかかわりから考えていきたい。

委員：公民館は高齢者が利用している施設というイメージだが、地域で孤立している人たちにとっても意味があるのではないかと考える。

委員：社会福祉協議会の事業と重複している部分がある。コラボできればよいと考える。

委員：前期答申では、地域づくりと公民館での学びがリンクしていることが明確になった。今後はどのように発展していくかが課題。他の自治体では、公民館が「コミュニティセンター」となり、利用者の高齢化が進み、若い人たちが入っていけない状況がでてきている。一方、若い人たちは、SNSを使って強いネットワークをつくり、新しい地元づくりを目指している。国分寺市でも高齢化が進む中、若い人たちと公民館とのかかわりが課題。様々な多様性のある人材が、運営サポート会議や公民館講座に参加してもらえよう、抜本的な改革が必要。

副委員長：運営サポート会議委員の考えも一律ではない。その中で、それぞれの館をどのように活発に発展させていくのか、運営サポート会議で検討していく

ことが大切である。

委員長：運営サポート会議の在り方は、第1期の審議会でも課題となっており、ある程度は答申でも触れている。次回は答申を読んだ上で、次へのステップを考えていきたい。

（2）東京都公民館連絡協議会派遣委員の選出について

事務局：東京都公民館連絡協議会規約第7条第4項に基づき、委員部会に出席いただく委員の選出をお願いします。

委員長：東京都公民館連絡協議会委員部会派遣委員を高塚委員に決定する。

事務局：東京都公民館連絡協議会委員部会の第1回研修会を9月2日（土）午前10時から正午までの日程で、昭島市公民館で開催する。参加については7月31日までに事務局まで連絡していただきたい。

（3）管内研修・管外研修について

事務局：平成29年度の管内研修・館外研修については、次回以降の会議で審議していただきたい。また平成30年2月3日（土）に第54回東京都公民館研究大会を狛江市で開催するので出席をお願いします。

4 その他

事務局：次回以降の会議日程を決めていただきたい。

委員長：次回日程は9月11日（月）午後3時から5時までとし、本多公民館講座室で開催する。内容は答申を読んだ上での自由討論とする。

委員長：以上で第1回定例会を終了する。